

句会

句会とは

句会というのは、複数の人が自作の俳句を提出し、お互いに選をして、成績を競い、評価しあったり、指導者（選者）の指導を受けたりする集まりのことをいいます。

俳句の原点は句会にある、といわれるほど、上達するには一番勉強になる鍛錬の場でもあります。

句会の方法

いま、行われている標準的な句会の方法を簡単に紹介します。

① 出句（しゅく）

決められた数の句を、紙を切って作った小さな短冊に、一枚に一句ずつ書いて提出します。二、三十人の句会なら一人五句が普通です。それより人数が多ければ三句、少なければ七句ということもあります。

特にことわりのない場合は、当季雑詠といって、その季節の季語を用いて作った句を出します。

短冊には、句だけを書き、作者名は書かないようにします。俳句は、すべて縦書きにします。

② 清記（せいき）

集まった短冊を裏返したまま交ぜ、出句と同数（五句出句なら五枚）を各自に配り、各自は、それを清記用紙に並べて（五枚なら一句ずつ五行になります）書き写し、右肩にページ番号を入れます。これで、だれの句

がどこにあるのか、それがだれの句かは、まったく分からなくなります。

③ 選句（せんく）

番号を入れたら選句に入ります。清記用紙に書かれている句のよいと思った句をメモ用紙に書き抜いておきます。終わったら右隣の人へ回し、左隣の人から回ってきた次の清記用紙から同じように抜いてゆきます。そして、自分が清記したものが戻ってきたら全部見たことになり、あらためて、抜いておいた句の中から、決められた選句数（普通五句出句の場合は五句）に絞り、それを選句用紙に記入します。これを互選といえます。

④ 披講（ひこう）と名乗り

全員が投句用紙を提出したら、それを選句者の名前とともに、順番に全部読み上げます。これを披講といいます。披講する人はあらかじめ決めておきます。そして、読み上げられた句の作者は間を置かず（まを おかず）に名前をいいます。これが名乗りです。ここで初めてだれの句であったかが分かるのです。つまり、人にこの句はいい句ですと認められたから、堂々と、それは私の句ですと名乗るのです。

⑤ 講評（こうひょう）

指導者（選者）がいる句会では、互選の後で指導者の披講を行い、そのコメントや句の添削（てんさく）を施したりしながら評を行います。

句会によっては、点数をつけて、結果を発表します。

当季雑詠以外の句会

① 題詠（だいえい）

提出する句が、当季雑詠でなく、あらかじめ決められた題による句会のことです。句会の日以前に決められて

いるものを兼題（けんだい）といい、当日会場で発表になるものを席題（せきだい）といいます。

② 吟行（ぎんこう）

句会当日にどこかへ出かけ、出句締切時間まで、各自が散策しながら句を作り、句会をするのが吟行句会（単に、吟行会ともいいます）です。そこに出す句は、吟行場所で見えた素材を詠むのが決まりで、これを囑目吟（しよくめうぎん）といいますが、そのためにも、季節の素材が豊富な場所を選ぶことが大事ですし、人が集まりやすい交通の便がよいところが望まれます。

句会を楽しみましょう

一般的な句会のやり方を簡単に書いてみましたが、いろいろアレンジしたり、工夫をすると、もっと面白く楽しい句会ができると思います。

グループを作って、一度チャレンジしてみませんか。俳句がもっと楽しくなると思います。

